

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○7月13日～

先週は米国とイランの停戦の行方が不透明になったことで株が急落する場面がありました。

60日間の停戦は続かないという予想も多かったので、あまりサプライズはないようです。

再びホルムズ海峡を閉鎖するとイランは表明しました。

経済への影響が出てくることが懸念されます。

米国で開催中のワールドカップ、イランで先週行われていたハメネイ師の葬儀などイベントが終わると本格的な戦闘が始まるリスクが高まります。

また、ロシアとウクライナも攻撃が激化しているように見えます。

ロシアの石油関連施設などが攻撃されていることから中東だけでなく、ロシアも原油などの輸出力が大幅に減っています。

すでに、ロシア国内でガソリンやディーゼルが不足しているという情報があります。

春に比べて原油などの備蓄は減ってきているため、深刻なエネルギー不足が今年後半に起こる可能性があります。

今のところマーケットは落ち着いた動きですが週明けから事態が急変するかもしれないので、ニュースはしっかり見ていきたいです。

そして、日本の長期金利は先週も上昇し、ついに2.9%となりました。

その後、片山財務大臣が「GPIFなど年金基金が国内の金融資産に投資していく方向を後押しする」と言った発言もあり、為替はやや円高に振れました。

今まで国内よりも海外投資を推し進めるような政策が多かったため、方向転換となればマネーの動きが変わってくる可能性があります。

アベノミクスでは、海外の債券や株への投資比率が引き上げられ、これらの政策が円安を加速させた要因となっています。

さすがに円安を止めるために、今度は海外でなく国内へ資金が流れるようにかじ取りを変えてきたということでしょうか。

また、日本の長期金利(10年国債利回り)の上昇を止めるためにも年金基金や個人投資家に日本国債を買い支えてもらう必要が出てきたのかもしれませんが。

政府としても円安と長期金利上昇を放置できない状況に追い込まれているように見えます。

米国の物価が上がってきていることから、米国が利上げに動く前に手を打たないといけないのかもしれませんが。

ウォーシュ・FRB議長がどのような金融政策を考えているのか未知数ですが、今週は議会証言があるので注目したいです。また、米国の消費者物価指数(CPI)の発表もあります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル／円>

ドル／円は162円台後半では上値が重く、163円をトライする動きにはなっていません。片山財務大臣が年金基金などにさらなる国内投資を後押しする方策を考えているというような発言で、161円台前半まで急落後、やや戻して161円台後半でマーケットは終わっています。週明けすぐに162円台を回復すれば、再度162.8円あたりを目指す動きになるでしょうか。下値は、先週安値の161.7円を割り込めば、7月安値の160.6円あたりがサポートとして意識されます。急落しても買いが入りやすい状況なので、160円を割り込むまでは高値圏での動きが続きそうです。しばらくは、161－163円程度のレンジを動く可能性があります。

<気になるクロス円>

クロス円は動きが通貨ペアによって違いますが上昇の勢いが弱まっているペアもあります。ユーロは186円手前で頭打ちとなっています。週足ではほぼ動きがなくなってきているためトレンドが発生するまでは細かい売買を狙っていきたいです。豪ドルは日足で見ても6月以降、高値・安値の切り下がりが起きているため安値更新の動きには注意しながら取引したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では5月機械受注などがあります。米国では6月月次財政収支、6月消費者物価指数、ウォーシュ・FRB議長発言、5月対米証券投資、7月ニューヨーク連銀製造業景気指数、6月卸売物価指数、米地区連銀経済報告(ベージュブック)、前週分新規失業保険申請件数、7月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、6月小売売上高、7月NAHB住宅市場指数、6月住宅販売保留指数、6月住宅着工件数、6月鉱工業生産、7月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。欧州ではユーロ圏で5月鉱工業生産、6月消費者物価指数などがあります。ほかには、中国で6月貿易収支、4－6月期GDP、カナダで政策金利、英国で5月GDPの発表などがあります。